

## 続・鎌倉散策余話

上原 昇(2組)

### ▼鎌倉と小津安二郎



北鎌倉の自宅での小津：オフィス小津

文士とはちょっと違いますが、鎌倉に縁の深い人に、映画監督の小津安二郎（1903～1963）がいます。写真を見ると老成した人のようですが、今の我々よりずっと若く、60歳で亡くなっています。小津は昭和27(1952)年、北鎌倉の名刹、浄智寺近くに転居、終の棲家としました。小津の墓所は先日の「蕨の会」で訪れた円覚寺境内にあるそうです。

### ▼映画「晩春」



昨年が小津の没後 60 年ということもあり、記念イベントが各地で開かれています。

北鎌倉駅のプラットホームから円覚寺でのお茶会のシーンで始まる名作「晩春」（1949年公開でその年のベスト1）を、先日、満席の名画座で再見してきました。（1/4～26 小津安二郎生

誕 120 年特集「白と黒の小津」、@神保町シアター）

<https://www.shogakukan.co.jp/jinbocho-theater/program/ozu2.html>

我々が生まれた頃に作られた「晩春」は 70 年以上経っていますが、父と娘の物語は今観ても全く色褪せていません。この映画は若い頃観るよりも人生経験を重ねてから観る方が感動するようです。主演の笠智衆は当時 45 歳で 60 歳近い役柄を演じており、小津同様、昔の人は老けてみえます。

### ▼W.ヴェンダースの映画「PERFECT DAYS」

小津に私淑する映画監督は国内外を問わず多くいます。ドイツの映画監督、ヴィム・ヴェンダース（1945～）もその一人で、近作「PERFECT DAYS」が昨年末から公開されています。昨年 5 月、カンヌ国際映画祭で役所広司が最優秀男優賞を受賞したことで話題になりました。封切日に観た筆者ですが、役所の演技、スカイツリーから俯瞰した現代東京の美しい映像、バックに流れる懐かしい音楽にすっかり癒されました。

日本の資本（ユニクロ創業者の柳井正氏の次男康治氏が企画・製作）で、外国の監



監督、日本の俳優によって作られた映画は従来の邦画、洋画で区分するのが難しくなりました。

映画「PERFECT DAYS」ポスター

▼「平山」で思い出すこと



平山周吉著「小津安二郎」

映画「PERFECT DAYS」で主人公を演じる役所広司の役名は「平山」です。

小津信奉者の監督ヴェンダーズは、小津の「東京物語」（1953年）、「秋刀魚の味」（1962年）で笠智衆が演じた「平山」を意識して命名したものです。因みに「東京物語」では平山周吉、「秋刀魚の味」では平山周平と少し違っているのも面白いです。

著名な編集者・作家に平山周吉（1952年～）という人がいます。「東京物語」の主人公の名前をペンネームにしています。彼の著書「小津安二郎」（新潮社、23年3月刊）は読み応えがあり、鎌倉文士の大佛次郎賞（2023年）を受賞したのも肯けます。小津に関心のある方にはお薦めの本です。

（2024年1月5日記）

以上